

● 選評

小島なお

・合川秋穂（京都府）

折る君の指には指紋がない

祈ることは何かを引き換えにすること。指紋を失った君の指でなされる祈りは、個から離れた匿名の、無名の祈りに近いだろう。

・風船（東京都）

関係ないと信じて

ズボンを穿き替える

紛争は、貧困は、兵器は、ウイルスは。どこまでがわがことと言えるのか。当事者になるのはいつだって難しい。ズボンを履き替えればもう別人のよう。

・藤ほたる（神奈川県）

じめつたい

子宮の痛み振りほどき

東京タワーを抱きとめたい

あらかじめ選択できない性。性は不条理で、孤独で、せつない。それならばいつそ肉体を超えたもっと大きな、遙かなものを産み、両腕に抱きとめたい。

・翠（東京都）

いつか骨になるんだけど

また海で

背泳ぎをして驚かれない

骨になるまでのほんのひとときの生。どうせ死ぬのなら肉体があるうちに、肉体でしかできないことを。

・水鳥有為 (奈良県)

入道雲を

引き伸ばすと

JPEGの解像度に

限界がおきて

崩壊する

現実なのか虚構なのか、もう誰も判別できない世界を生きている。夏空を崩壊に向かわせる巨大な指。その指は私の指であり、あなたの指でもある。

・細村 星一郎 (東京都)

シマウマに車輪があったら

それを外す

ないはずなのに、ある。シマウマにある車輪を想像するとき、それはごく自然にそこに付いている。外すことで自由になるのか、あるいは。

・茶和鈴 (東京都)

憩いのひと時

と聞くと

白鳥の水かきを思い出す

水上のうつくしい白鳥の身体を支える、すこし不格好な水かき。冬には冬の喩を背負う「ひと時」という実体のない時間。

・豊富 瑞歩 (茨城県)

怖すぎる噂話を聞きたいよ

今、人生の怖くない部分

怖い映画を観たいのは、怖い本を読みたいのは、いま人生の怖くない部分だから。これからさき人生の怖い部分になったら、今度は自分が噂話になる番だ。

・郡司和斗 (茨城県)

クソでかい感情って

結局なんなんだ

海辺につづくだんだん畑

「クソでかい感情」はもはや感情というよりも、海や、空や、大気と呼ぶ方が近いのかもしれない。なだりの畑のどれもが海へ誘われているように。

・猫谷圭希 (広島県)

「おはよう」が

冬の間は目に見える

朝はじめての言葉を交わすときに見える白い息。冬の、とくべつに寒いひとときだけ、相手の言葉を目で見ることが出来る。